特選　「白い杖」

大学の帰りに、駅のホームで電車を待っていると白杖を持った男性が階段を降りてきているのが見えた。次に来る電車に乗ろうとしていたのか急いでいるようだった。私はその時、目が見えない人も電車を利用するのだと驚いた。だが電車はもうホームに着くところで、この男性は間に合うのだろうか、無事に乗れるのだろうかと心配にもなった。到着した電車はとても混んでいた。ドアが開くと乗っていた人達が一斉に降りてきた。男性はその人達を避けながらやっとホームに着くと、白杖を使いドアを探しはじめた。そのうちに発車のアナウンスが流れた。私はそれまでその男性から目を離せずにいたが、はっと我に返り電車に乗った。その時、男性の元に一人のサラリーマンが駆け寄り、「大丈夫ですか。こっちですよ。」と言いながら男性の手を引きドアまで案内した。ちょうど私と同じ車両になった。男性はサラリーマンに「ありがとうございました。助かりました。」と嬉しそうに言っていた。その様子を見て、男性が無事電車に乗れたことに安心したが、自分が助けようとしなかったことに気付き恥ずかしくなった。ずっと見ていたのに少しも動こうとしなかったことを後悔した。

家に帰って白杖について調べてみた。白杖は視覚障害を持つ人が使うもので、中には全盲の人もいるそうだ。全く見えない中で電車に乗ることはとても大変で怖いのだろうなと思った。また白杖を持った人を助ける時には、いきなり引っ張ったり押したりせず、まずは優しく声をかけたり、肩をトントンと叩くと良い事や、白杖をまっすぐ頭上に高くあげていたらＳＯＳのサインである事も知った。ただ助けるだけではなく相手の気持ちや立場になって考え行動するために、知っておくべき事がたくさんあると思った。

困っている人がいたら助けるという事は、当たり前であると思っていたし、自分もその時が来れば出来るだろうと思っていた。だが実際は困っている人を見つけても、冷静に対応する事が出来なかったし、勇気を出して声をかける事も出来なかった。助ける事は勇気のいる事だ。だが、助けて欲しいと求める方がより勇気がいるだろう。だからこそ私達は、相手の事を知り相手の立場になり考えて行動するべきであると思った。これから困っている人を見かけたら、勇気を出して声を掛け、助けていきたいと思う。